

# 平成28年度 第2回 久留米市総合教育会議

平成28年11月21日  
久留米市庁舎303会議室

## 次 第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 議題 久留米市の児童生徒の学力の保障と向上について
- 4 その他
- 5 閉会

**平成28年度 第2回 久留米市総合教育会議**

**議題**

**久留米市の児童生徒の学力の保障と向上について**

**平成28年11月21日**

## 目 次

1	今年度の議題について .....	1
2	第1回会議について .....	1
3	第2回会議について .....	1
4	福井県・秋田県の調査結果について .....	2
5	平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について .....	6
6	学力向上に向けた課題と今後の方向性 .....	7
7	具体的な取り組み .....	14

# 久留米市の児童生徒の学力の保障と向上について

## 1 今年度の議題について

第3期久留米市教育改革プランの重点に掲げる「学力の保障と向上」については、その意義と効果に「持続可能で活力ある社会を実現する」「ふるさと久留米に貢献する」「子どもたち一人ひとりが社会を生き抜く」「次世代への貧困の連鎖を断ち切る」がある。

学力の保障と向上については、全国学力・学習状況調査の結果が全国平均を下回る状況が続くことから、教育行政の最も重要な課題の一つと位置付けている。また、学力の保障と向上が成果として実を結ぶことで、都市の魅力が高まるため、今年度の総合教育会議の議題としたところである。

## 2 第1回会議について

平成28年7月25日に開催した第1回総合教育会議では、久留米市の児童生徒の学力の実態を多角的な視点で明らかにし、学力の保障と向上に向けた市教育委員会と学校の取り組みをいくつか紹介した。

その結果、主に次のような意見が表明されたところである。

- ① 全国学力・学習状況調査の結果が全国トップクラスの秋田県、福井県の状況を現場レベルで調査する必要がある。
- ② 学力が低位層の児童生徒の状況を明らかにしたうえで力を入れる必要がある。
- ③ 宿題の出し方など、学力向上に向けた教師の意識と取り組みを高める必要がある。
- ④ 低学年からの取り組みによって、勉強に自信を付け、苦手意識を持たせないようにすることが重要である。

## 3 第2回会議について

以上を踏まえ、第2回会議では「福井県・秋田県の調査結果」「平成28年度全国学力・学習状況調査の久留米市の結果」を報告するとともに、市教育委員会で分析した課題と今後の取り組みの方向性を提示したうえで、更に議論を深めるものとする。

## 4 福井県・秋田県の調査結果について

### (1) 調査対象等

全国学力・学習状況調査において、全国トップクラスの結果を続けて出している福井県・秋田県の取り組みについて、次のとおり調査した。

	福井県	秋田県
調査期日	H28. 9. 20～H28. 9. 21	H28. 10. 3～H28. 10. 4
調査対象	福井市 福井市教育委員会 福井市立中藤小学校 福井市立灯明寺中学校	秋田県 秋田県教育委員会 秋田市 秋田市教育委員会 秋田市立外旭川中学校 能代市 能代市教育委員会 能代市立二ツ井小学校 能代市立二ツ井中学校

### (2) 基本データ

		福井市	秋田市	能代市	久留米市
人口		265,521 人	315,770 人	55,784 人	305,993 人
市立学校数	小学校	50 校	42 校	12 校	46 校
	中学校	23 校	24 校	7 校	17 校
市立児童生徒数	児童	14,179 人	14,400 人	2,258 人	16,474 人
	生徒	6,724 人	7,512 人	1,329 人	7,752 人
	計	20,903 人	21,912 人	3,587 人	24,226 人
市立教職員数	小学校	939 人	1,042 人	187 人	916 人
	中学校	571 人	648 人	125 人	507 人
	計	1,510 人	1,690 人	312 人	1,423 人
市教育委員会 (教育職)	管理職	1 人	2 人	2 人	2 人
	指導主事等	10 人	16 人	3 人	14 人
	計	11 人	18 人	5 人	16 人

注1 児童生徒数は H28. 5. 1 現在、教職員数は H27 年度中核市市長会都市要覧及び H27 年度学校基本調査より

注2 その他の項目は H28. 4. 1 現在

注3 市教育委員会の教育職数のうち、秋田市と久留米市は教育センターを含む。

### (3) 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果

#### 小学校

	国語 A (知識)			国語 B (知識の活用)		
	福井県	秋田県	久留米市	福井県	秋田県	久留米市
平均正答率	76.8	77.4	68.3	62.7	64.0	57.6
全国比	107	106	94	108	111	97
	算数 A (知識)			算数 B (知識の活用)		
	福井県	秋田県	久留米市	福井県	秋田県	久留米市
平均正答率	82.4	82.0	75.9	51.5	51.8	46.9
全国比	106	106	98	109	110	99

#### 中学校

	国語 A (知識)			国語 B (知識の活用)		
	福井県	秋田県	久留米市	福井県	秋田県	久留米市
平均正答率	77.9	79.1	72.7	70.1	72.4	63.8
全国比	103	105	96	105	109	96
	数学 A (知識)			数学 B (知識の活用)		
	福井県	秋田県	久留米市	福井県	秋田県	久留米市
平均正答率	69.3	66.6	57.8	50.8	48.4	40.0
全国比	111	107	93	115	110	91

注1 平均正答率は、試験区分毎の問題数に対する正答数の割合（単位％）

注2 全国比は、全国の平均正答率を100とした場合の指数

### (4) 学力向上に向けた主な取り組みについて

項目	福井県	秋田県
学力調査	① 小5と中2の児童生徒を対象に、毎年12月に県学力調査を実施 ② 小学校の全学年を対象に、算数ウェブテスト（単元毎の基礎力を測定）を実施	① 小4から中2までの児童生徒を対象に、毎年12月に県学力調査を実施。秋田市も市独自で問題を作成し、毎年10月に市学力調査を実施
授業改善	① 県学力調査の採点 → 結果分析 → 授業改善 → 全国学力・学習状況調査へと一連の学力調査をつなぐPDCAサイクルの徹底	① 全国及び県（秋田市は市実施分を含む）の学力調査の結果分析に基づく授業改善へのPDCAサイクルの徹底

（次頁に続く）

項目	福井県	秋田県
授業改善 (つづき)	② 授業改善を中心とした年2回の市教育委員会等による全校学校訪問（全員授業 → 助言）の実施 ③ ユニバーサルデザインや学年協働による授業の実践	② 授業改善を中心とした市教委委員会等による年2回～3回の全校学校訪問の実施 ③ 教育専門監（優れた授業力を有する専任の教職員）とのチーム・ティーチング（複数の教員による指導）の実施
生徒指導等	支援員、カウンセラー、学生相談員等による複数の支援体制	学級力向上アンケートの結果を踏まえたPDCAサイクルの徹底
家庭学習	① 宿題の提出と、やり直しを徹底するための根気強い指導及び励ましのコメントの記入 ② 低位層支援のための繰り返し学習	① 自学ノート（自主的な家庭学習の内容を記述するノート）に対する毎日のコメントの記入 ② 家庭学習ができていない児童生徒への居残り指導等の徹底
小中連携教育	中1ギャップ対応と、小中の円滑な接続のために小学校高学年における一部教科担任制を実施	小中9ヵ年の学びの共通理解のために、小中学校間の話し合いと保護者啓発の実施

## (5) 教育環境の特徴

### ① 福井県

ア 暴力行為等や不登校の児童生徒数が少ないため、児童生徒が安全・安心に学習に取り組むやすい環境がある。また、教師も学習指導や教材研究等に重点をおくことができると考えられる。

#### 平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（文部科学省）

- 暴力行為の1,000人当たり発生件数（公立の小中学校）  
（福井県）0.2件 （久留米市）4.9件
- 不登校である1,000人当たりの児童生徒数（公立の小中学校）  
（福井県）9.6人 （久留米市）11.3人

イ 三世代同居率が全国2位（17.6%（平成22年国勢調査））と高く、家庭や地域の教育や学校に対する関心が高いと考えられる。

ウ 県教育委員会による少人数学級の実施や、小学校高学年における一部教科の担任制導入により、「音楽と家庭の専科制」「算数の少人数指導」「理科のチーム・ティーチング」「社会と理科の学年間の交換授業」が行われ、教師間の高い協働意識と専門性を活かした質の高い指導を目指している。

#### 福井県の学級編成基準

小学校	1～4年生	35人学級
	5～6年生	36人学級
中学校	1年生	30人学級
	2～3年生	32人学級

エ 「宿題はやり直しまで」「学習内容は児童生徒が分かるようになるまで」を徹底している。

例えば、朝読書や朝自習の時間に、教師が毎日自学ノートを確認し、生徒に返したり、テスト前は部活動を1週間中止し、放課後30分間を生徒が自主的に教師に質問できる補充学習を実施したりしている。

## ② 秋田県

ア 暴力行為等や不登校の児童生徒数が少ないため、児童生徒が安全・安心に学習に取り組むやすい環境がある。また、教師も学習指導や教材研究等に重点をおくことができると考えられる。

#### 平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（文部科学省）

- 暴力行為の1,000人当たり発生件数（公立の小中学校）  
（秋田県）0.3件 （久留米市）4.9件
- 不登校である1,000人当たりの児童生徒数（公立の小中学校）  
（秋田県）8.9人 （久留米市）11.3人

イ 三世代同居率が全国3位（16.4%（平成22年国勢調査））と高く、家庭や地域の教育や学校に対する関心が高いと考えられる。また、ゲームセンターやカラオケボックス等の遊戯場が少なく、子どもの成長に適した生活環境に恵まれていると言える。

ウ 小学校は33人以上、中学校は34人以上の学級に対し、少人数学習のための人的配置が行われている。

エ 教師の資質向上を図るため、次のような人材育成システムを運用している。

- ・ 教科指導力の高い教師を教育専門監として専任で配置し、担当する学校の教師と定期的なチーム・ティーチングを行い、実践的指導力を高めている。
- ・ 全国学力・学習状況調査の学校に対する質問「校長は授業をどの程度見回っていますか」に対し、肯定的な回答をした学校は、小学校約25ポイント、中学校約30ポイントとなり全国を上回る。



オ 全国学力・学習状況調査の結果から、「難しいことでも恐れなくて挑戦する」「自分の行動や発言に自信を持っている」と回答した児童生徒及び「熱意を持って勉強している」「授業中の私語が少なく落ち着いている」と回答した学校の数が全国を大きく上回ることから、学習意欲が高い児童生徒が多いことがうかがえる。

## 5 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について

### (1) 小学校

#### ① 学力の結果

区分		国語A (知識)	国語B (活用)	算数A (知識)	算数B (活用)
平均正答数 ／問題数 (問)	久留米市	10.2/15	5.8/10	12.1/16	6.1/13
	福岡県	10.8/15	5.8/10	12.4/16	6.1/13
	全国	10.9/15	5.8/10	12.4/16	6.1/13
平均正答率 (%)	久留米市	68.3	57.6	75.9	46.9
	福岡県	71.7	57.8	77.8	47.3
	全国	72.9	57.8	77.6	47.2

#### ② 平均正答率及び全国平均との差の推移

資料2のとおり

#### ③ 考察

##### ア 改善点

昨年度と比較すると、国語B、算数A・Bは全国平均正答率との差が縮まり、改善の傾向が見られた。

具体的にみると、特に、国語Bでは「読むこと」の領域が、算数Bでは「量と測定」の領域が全国平均を超えるとともに、算数Aでは「数と計算」と「図形」の領域において、昨年度より全国との差が縮まっている。

##### イ 課題点

全ての教科区分で、久留米市の平均正答率は、国・県の正答率を下回っている。国語Aは、昨年度と比較すると全国平均正答率との差が拡大した。その要因としては、漢字やローマ字の読み、書きに関する基礎・基本的な学力の定着が十分に図られていないことがあげられる。

## (2) 中学校

### ① 学力の結果

区分		国語A (知識)	国語B (活用)	数学A (知識)	数学B (活用)
平均正答数 ／問題数 (問)	久留米市	24.0/33	5.7/9	20.8/36	6.0/15
	福岡県	24.7/33	5.9/9	21.7/36	6.4/15
	全国	25.0/33	6.0/9	22.4/36	6.6/15
平均正答率 (%)	久留米市	72.7	63.8	57.8	40.0
	福岡県	74.8	65.8	60.3	42.4
	全国	75.6	66.5	62.2	44.1

### ② 平均正答率及び全国平均との差の推移

資料3のとおり

### ③ 考察

#### ア 改善点

中学校においては、昨年度と比較すると、国語A・B、数学Bは全国平均正答率との差が縮まり、改善の傾向が見られた。

具体的にみると、国語Aでは「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域、国語Bでは「書く」「読む」の領域が、数学Bでは「数と式」「関数」「資料の活用」の領域において、昨年度より全国との差が縮まっている。

#### イ 課題点

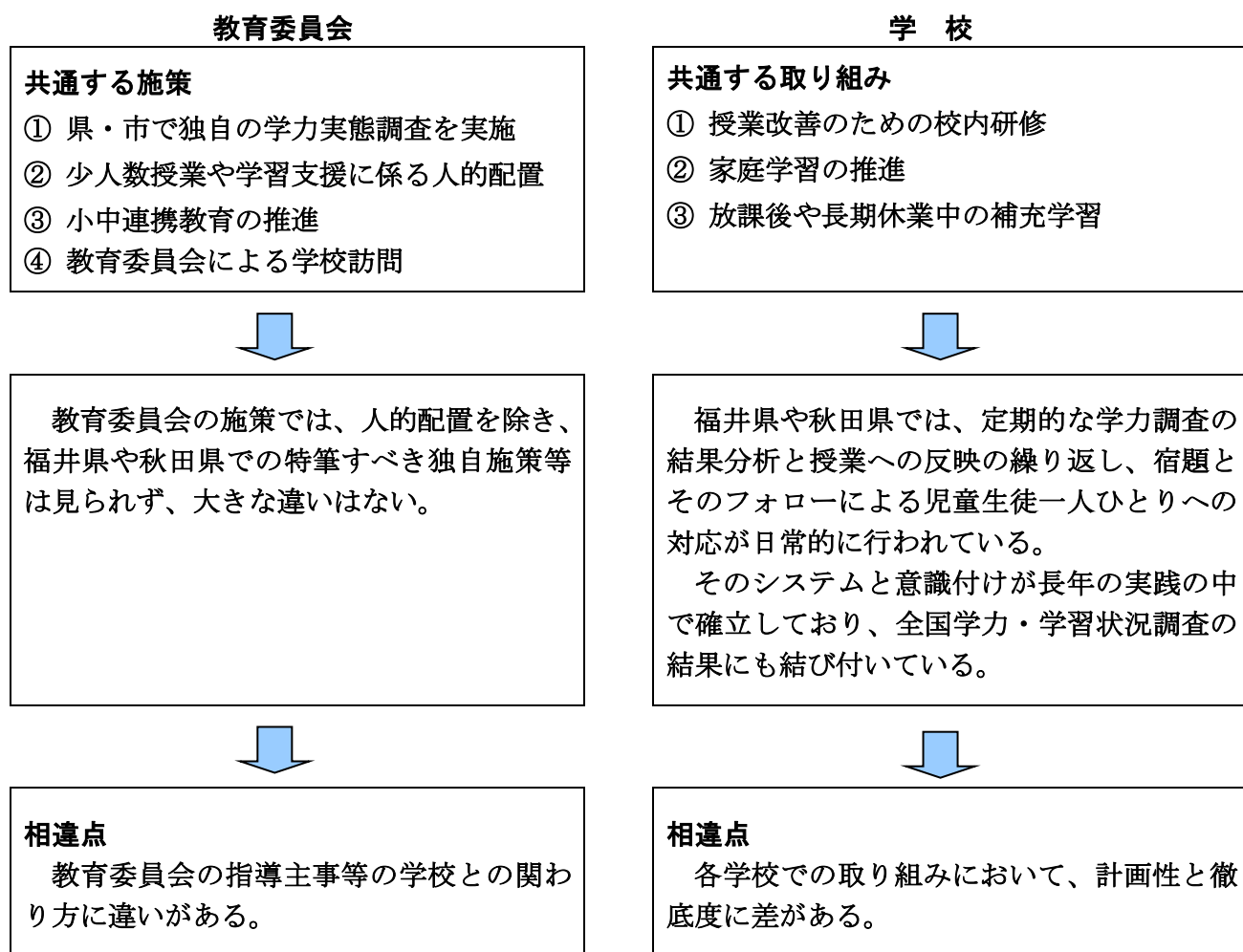
全ての教科区分で、久留米市の平均正答率は、国・県の正答率を下回っている。数学Aは、昨年度と比較すると全国平均正答率との差が拡大した。その要因としては、数量や図形などについての知識・理解や数量関係を文字式に表すなどの数学的な技能の獲得が十分に図られていないことがあげられる。

## (3) 児童生徒質問紙の主な結果と考察

平成28年度全国学力・学習状況調査において、学力調査と併せて行われた児童生徒質問紙（学習や生活状況等に関する調査）の主な結果と考察は、資料4のとおりである。

## 6 学力向上に向けた課題と今後の方向性

### (1) 福井県・秋田県と久留米市の取り組み総括



### (2) 総括から見える久留米市の課題と方向性

#### 課題 1

わかる授業づくりや日常の学習の体制づくりに関して、学校間や教職員間で課題がある。

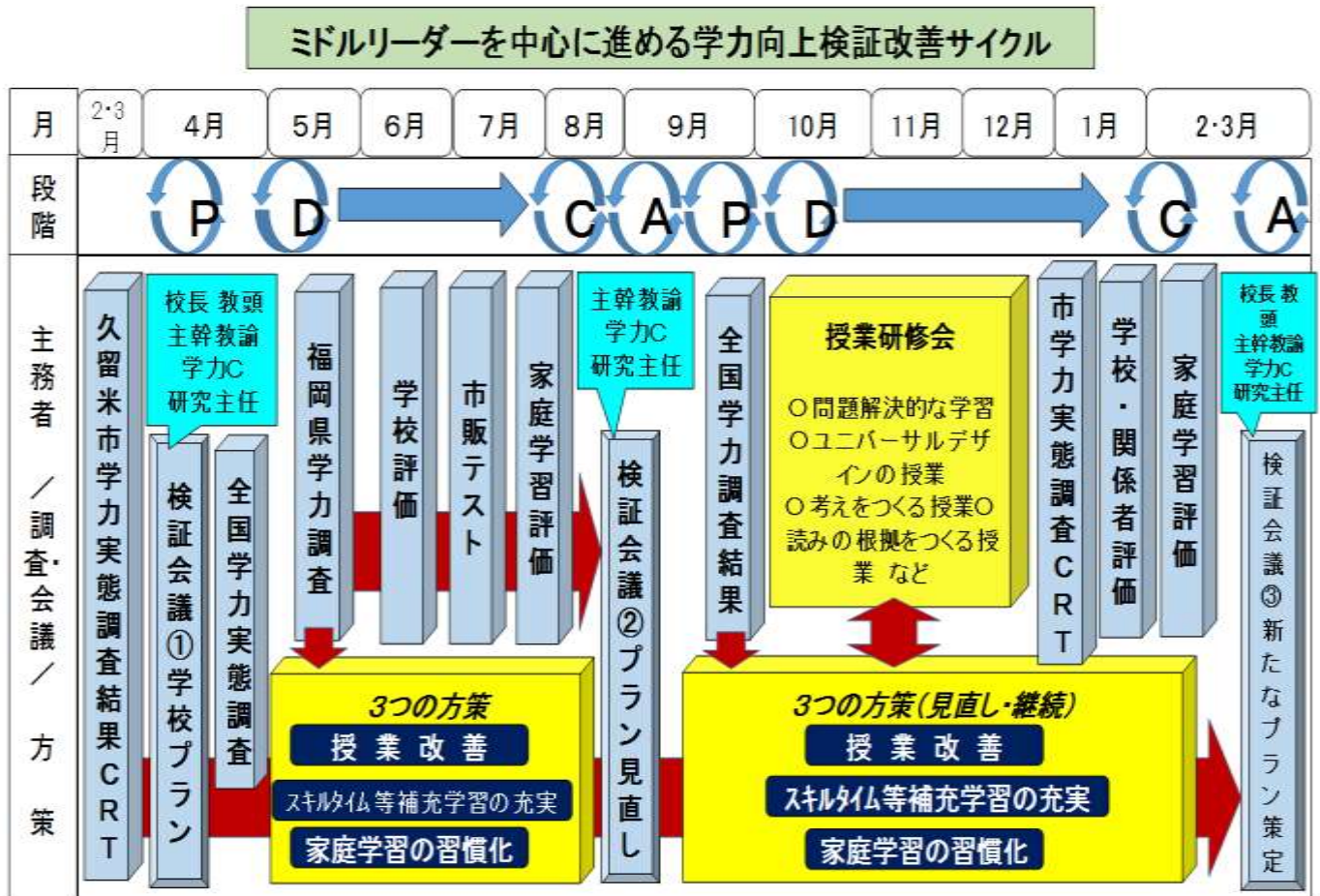
#### 現状 1 久留米市と秋田県の授業等の状況

質問項目	小学6年生		中学3年生	
	久留米市	秋田県	久留米市	秋田県
放課後に算数・数学の補充学習をよくしている割合	43.5%	45.5%	11.8%	35.6%
授業の最後に振り返る活動を設定している割合 (生徒)	74.5%	90.5%	60.7%	85.3%
授業の最後に振り返る活動を設定している割合 (教師)	91.3%	99.0%	94.1%	96.6%

## 今後の方向性

- ① 学校が学力調査結果に基づいた検証改善サイクルを作成し、全教職員で共有化するとともに、同サイクルに沿ったわかる授業と学力向上に向けた取り組みを具体化するために、教育委員会の指導主事による支援を行う。

## 学校における例



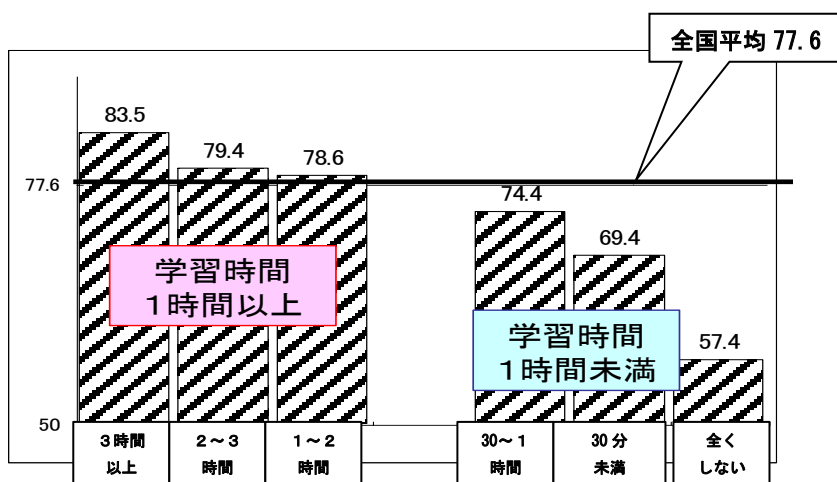
- ② 各中学校の学力向上コーディネーターが全国学力・学習状況調査等の結果分析を行い、次年度に向けた具体的な取組計画表を作成する。(資料5参照)
- ③ 教育委員会の指導主事等が研究授業等の指導助言だけでなく、担当する学校に定期的・計画的に入り、授業改善並びに学校の実態に応じた家庭学習の習慣化及び補充学習のシステム化について支援する。

## 課題 2

家庭学習において、1時間以上学習する小学6年生・中学3年生は全国平均をやや下回る。全く家庭学習をしない児童・生徒は全国平均より多い。

### 現状 2-1 久留米市における家庭学習と学力の相関

久留米市においても、家庭学習時間が1時間以上の児童生徒は、全国の平均値(77.6)を上回っており、家庭での学習時間と学力に強い相関がある。



小学校6年生 算数A

### 現状 2-2 久留米市と秋田県の家庭学習の状況

質問項目	小学6年生		中学3年生	
	久留米市	秋田県	久留米市	秋田県
平日に家庭学習を1時間以上している児童生徒の割合	55.7%	72.2%	63.8%	80.7%

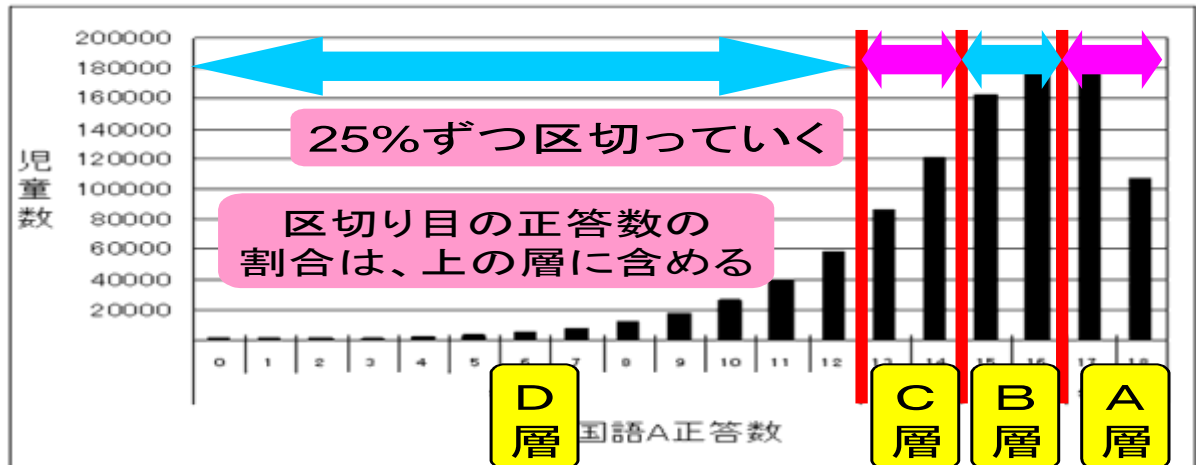
### 今後の方向性

- ① 各中学校の学力向上コーディネーターが中心となって、職員全てに共有化された学習時間の向上につながる宿題の出し方や自主学習ノートの作成など、学校の状況に応じたシステムを構築する。
- ② 児童生徒の家庭学習に対して、保護者が協力する意識の高揚と具体的な関わり方を明確にした家庭学習の推進システムを構築する。

### 課題3

全国平均と比較すると割合が多い学力低位層（D層）への支援（学力低位層とは、正答数の分布を25%ずつ4区分に分割し、正答数の高い順から学力A層、B層、C層、D層としたもの）

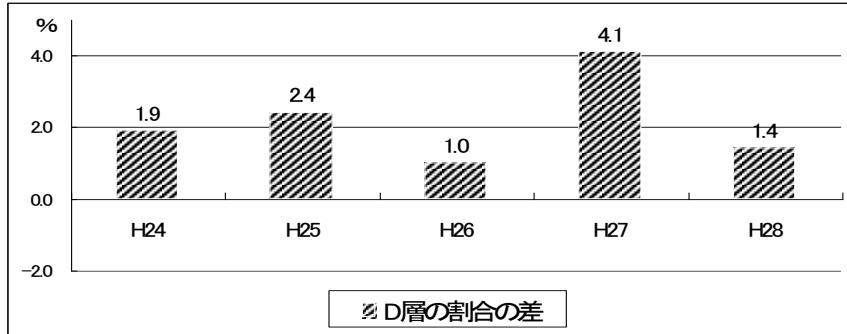
## 学力層による分析



現状3 久留米市の学力低位層の状況と対策

平均正答率とD層の比率(全国との差)

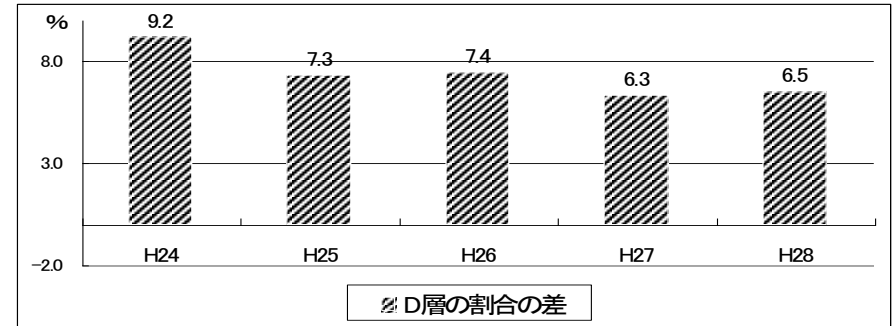
小学校 算数A



小学校の層の割合の差は減少し改善の傾向

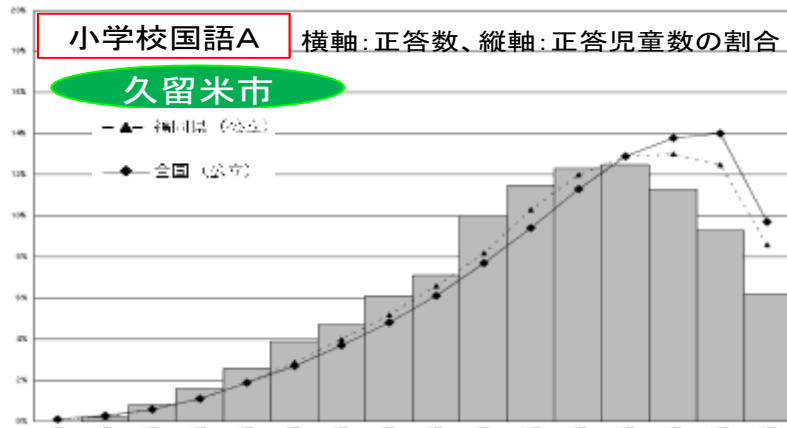
平均正答率とD層の比率(全国との差)

中学校 数学A



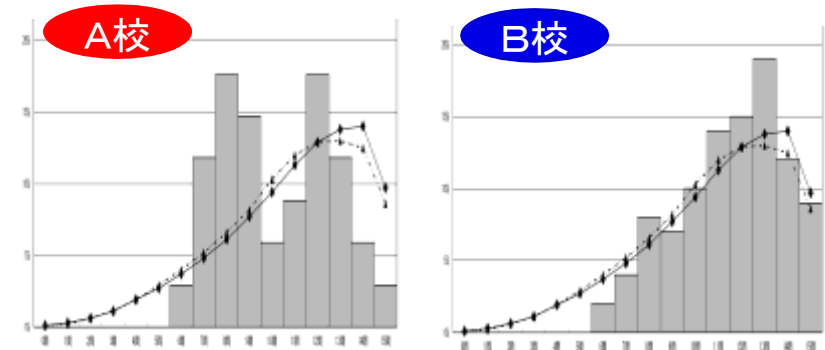
中学校のD層の割合の差は横ばいの状況

正答数分布グラフから見えてくること



山が左寄り ⇒ 中位層の全体的な底上げ

さらに学校ごとの正答数分布を見ていくと



ふたこぶ型

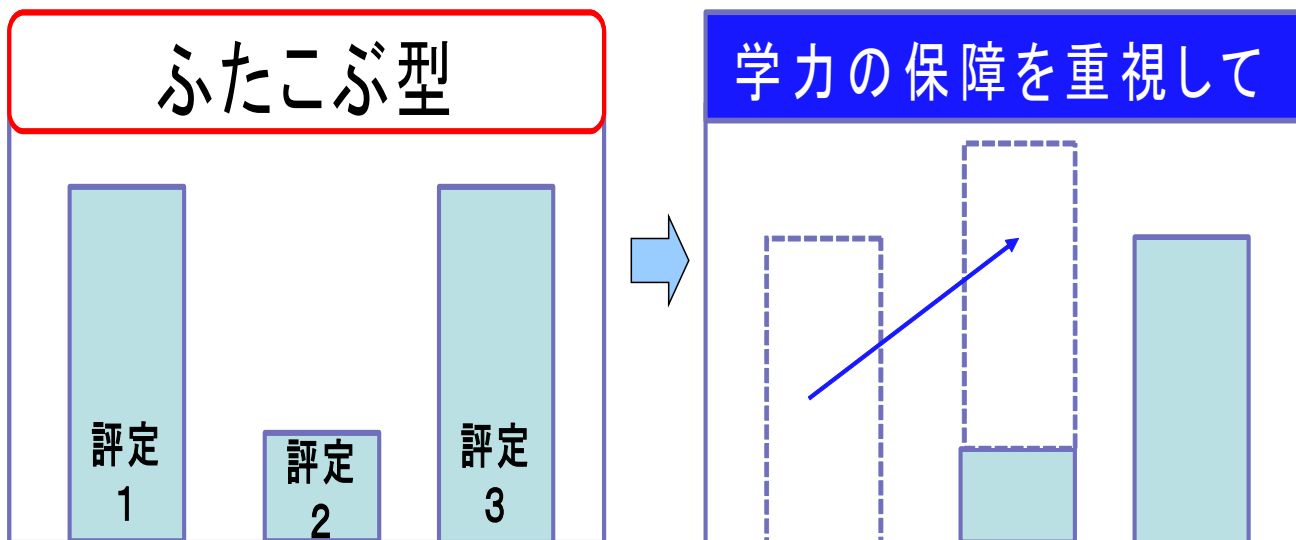
なだらかな山型

D層が多い学校は二極化 ⇒ 低位層の重点対策

## 今後の方向性

- ① 各学校の学力実態と教育環境に応じ、地域学校協議会と連携した学習サポーターの活用による補充学習の新たなシステムづくり
- ② 授業等で学力が定着できていない児童生徒を根気強く最後まで指導するための教職員の時間の確保及び指導意識の向上

(例) 学力低位層の児童生徒を中位層、上位層へ

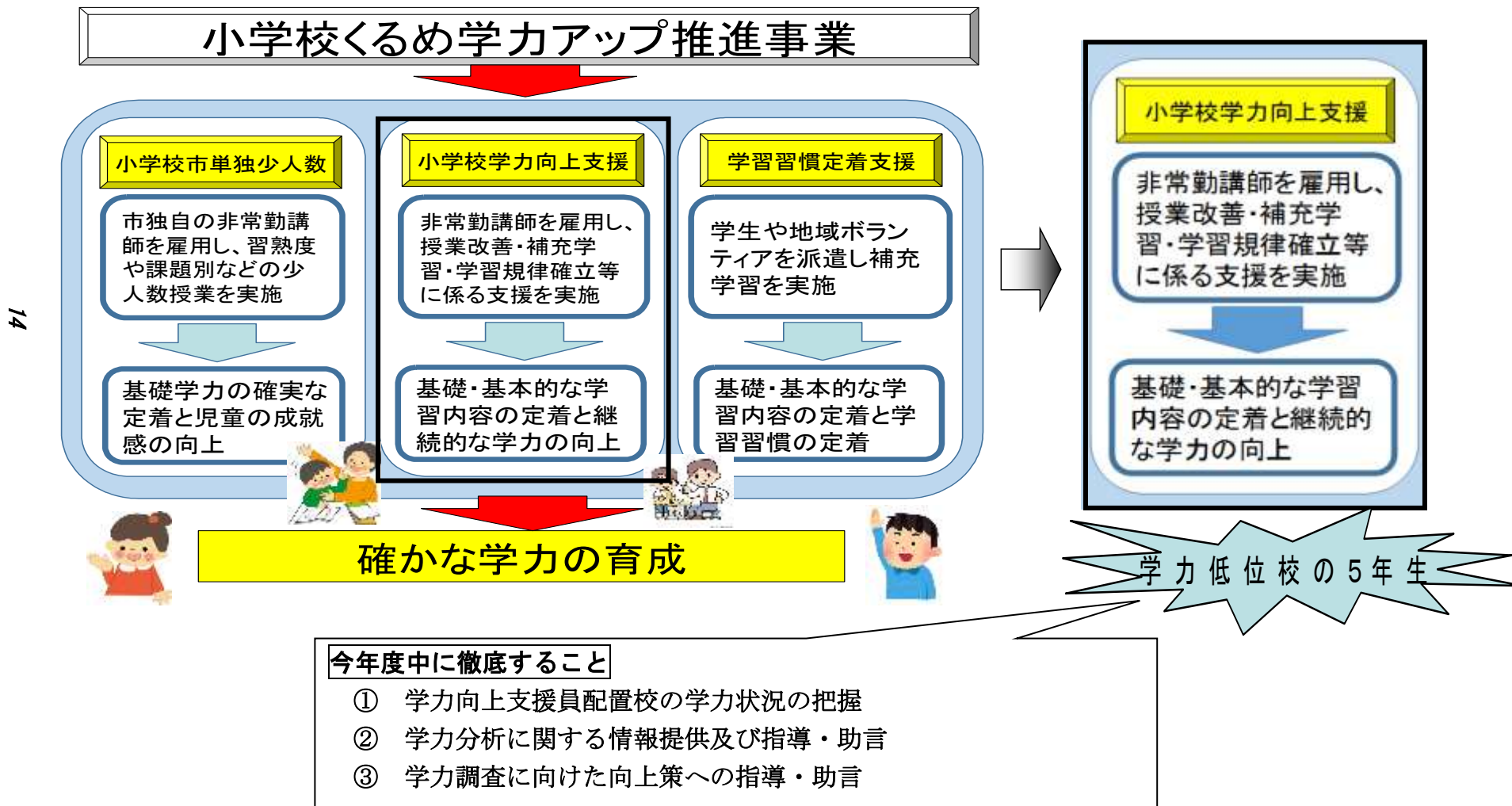




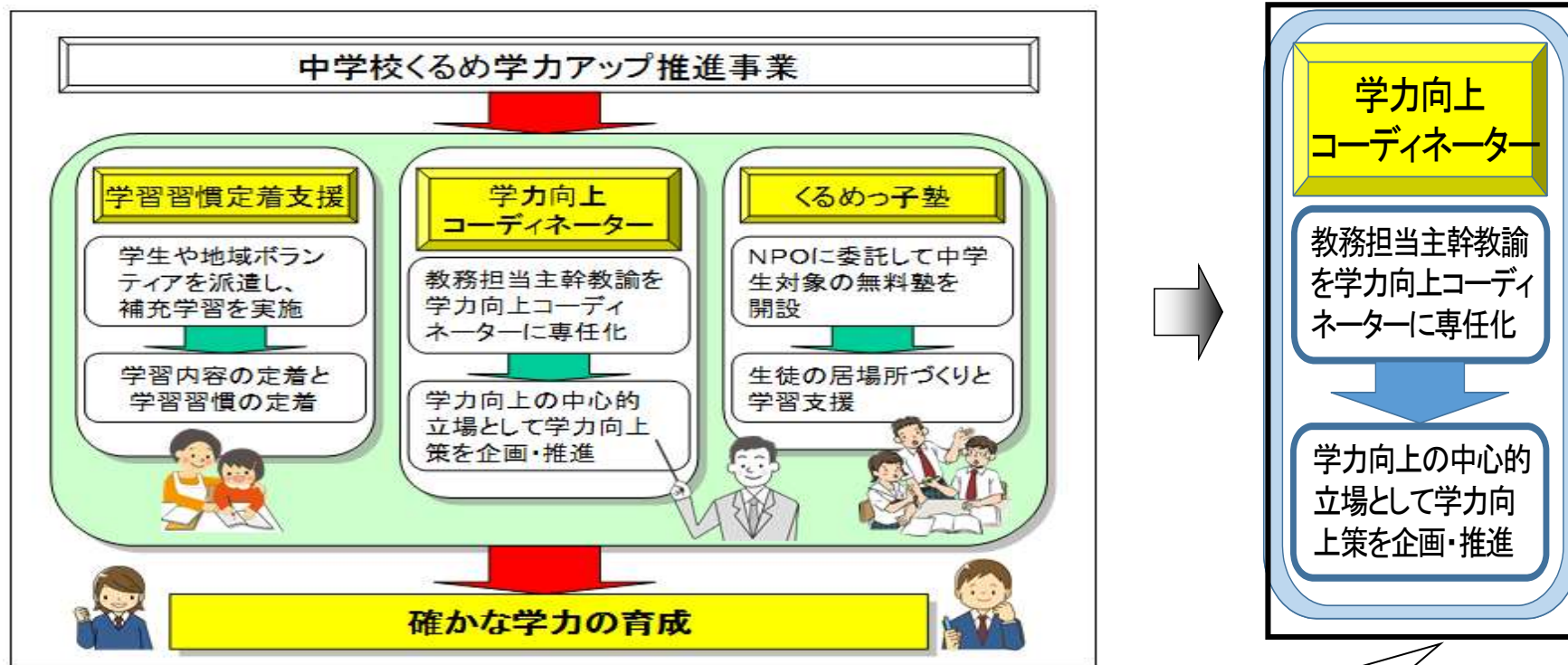
## 7 具体的な取り組み

(1) 平成29年4月に向けて今年度中に徹底すること

小学校（29年度の全国学力・学習状況調査を視野に入れた学力向上支援員配置）



## 中学校（学力向上コーディネーターの機能強化）



### 今年度中に徹底すること

- ① 宿題を徹底するためのシステムづくり
- ② 全国学力・学習状況調査過去問題の計画的活用（授業での活用・プレテスト）
- ③ 11月から3月までの月ごとの具体的な取組計画の策定
- ④ 来年度の全国学力・学習状況調査での自己採点に向けた準備

## (2) 今後、計画的かつ継続的に実施すること

- ① これまでの施策の軸であった非常勤講師等の活用は、既に人材確保が困難であり、当該人材を市が直接雇用する手法は限界にある。今後は、地域に人材を求め、その確保とコーディネートを視点を置いた施策に取り組む必要がある。
- ② 各学校が「全国学力・学習状況調査」「福岡県学力実態調査」「久留米市学力・生活実態調査」の結果分析を踏まえて、学校の実態に応じた独自の教育活動が具体的に展開され、児童生徒の入れ替わりや教職員の人事異動に左右されにくい学校総体としての検証改善システムを構築する。
- ③ 児童生徒が安心して学習に取り組み、教師が学習指導や教材研究等に時間を割けるようにするため、問題行動対策に引き続き重点的に取り組む。
- ④ わかる授業の実現を図るため、学校 I C T の推進に重点的に取り組む。

### 小中共通項目

- ア 単元等に合わせた授業のまとめやプレテストとして全国学力調査の過去問題を活用することで、児童生徒に対し、基礎問題・活用問題を日々の学習と関連付けさせる。
- イ 全国学力・学習状況調査の終了後、直ちに自己採点し、早期の分析を行うことで、次年度の調査に向けた具体的な取り組み計画を作成する。
- ウ 地域や家庭と連携して、放課後や長期休業中における学習サポーターを活用し、学力低位層や個々の習熟度に応じた補充学習を計画・実施する。

### 小学校

- ア 5年生までの既習の学習内容、特に国語における「ローマ字」や「故事成語」など、中学年で学習し、その後単元として出てこない内容についての確認と復習を行う。
- イ 5年生を対象とした学力向上支援員配置校における支援員の機能強化と、全国学力・学習状況調査の分析後に、効果的な支援計画を作成する。

### 中学校

- ア 各学校で学力向上コーディネーターが中心となり、授業での学習内容の定着と毎日の家庭学習を習慣化させる宿題のシステム化を行う。
- イ 部活動と補充学習や家庭学習は両立させるという意識を、生徒・保護者・教職員が共通して理解するとともに、補充・家庭学習の時間の確保と内容充実を図る。

平成28年度 第2回 久留米市総合教育会議

資料集

平成28年11月21日

## 目 次

資料 1	福井県・秋田県の調査結果について .....	1
資料 2	平均正答率及び全国との差の推移（小学校） .....	5
資料 3	平均正答率及び全国との差の推移（中学校） .....	7
資料 4	児童生徒質問紙の主な結果と考察 .....	9
資料 5	計画表について .....	10

## 資料 1 福井県・秋田県の調査結果について

### 1 福井県（福井市）の取り組み

#### (1) 福井県の学級編成基準

学年	人数
小1～小2	35人学級（31人以上の学級には支援員を加配）
小3～小4	35人学級（31人以上の学級には加配教員TT、少人数指導）
小5～小6	36人学級（31人以上の学級には加配教員TT、少人数指導）
中1	30人学級
中2～中3	32人学級

#### (2) 加配教諭・非常勤職員の充実

加配教諭等	費用	内容
低学年支援員	県費	31人学級以上の1・2年生の学級への加配 (週25時間が8人)
TTや少人数授業の教員	県費	31人学級以上の3～6年生の学級への加配 (4名→副担任活用)
中学校カウンセラー	県費	年間10時間（1人）→小中連携の情報交換の際に活用
外国語の特別非常勤講師	県費	週1日（一回4時間）（1人）
学校運営支援員	県費	校務サポート、保健の書類、蔵書管理事務を行う。 (週3日勤務が1人)
いきいきサポーター	市費	支援の必要な児童への指導援助 (週35時間勤務が1人、週20時間勤務が1人)
小学校カウンセラー	市費	1回160分の54回（1人）
ライフパートナー学生	市費	学部学生、週2時間の12週、日中の子ども達の相談相手 として時給1200円（2人）
教職大学院インターン学生	—	週3日、教職大学院インターン学生（6人）

### (3) 学力向上のための指導体制

学年と教科	指導体制
3～4年生の算数・理科	TT指導
5～6年生の算数	少人数指導（習熟度別2クラスを3分割）
5～6年生の理科	TT指導
3年生以上の音楽科	専科制
5年生以上の家庭科	専科制
5～6年生の理科と社会科	交換授業、一部教科担任制（H23～）

### (4) 家庭学習の徹底

- ① 中学校のステップノート（自学ノート）は、片面が問題プリントで、片面が間違い直しとなっている。
- ② 低位層を支援するため、中間・期末テストの過去問題や基礎基本の問題を厳選した1枚のプリントを課す。
- ③ 小学校では、2年生から自学スタート。間違いはその日のうちにやり直しまで指導する。

### (5) 補充学習の徹底（中学校）

- ① 中間・期末のテスト前は1週間部活動停止。期間中は放課後30分の質問会として、自主的に教師のところへ質問に行く。（自由参加60名）
- ② テスト前には、毎朝15分の朝学習の時間を確保し、授業に即した内容のプリント学習を行う。
- ③ 夏季休暇は、基礎学力が不十分な生徒を対象に、各教科4回ずつの補充学習を実施。午前中に8月末のテストに向けた過去問解きを行う。
- ④ 3年生は、11～3月まで毎日7校時を行い、補充学習を実施。教員は輪番で指導する。

### (6) 福井型の教員育成

- ① 教職員の小学校と中学校間での人事異動が20～25%ある。（福井県は、小学校と中学校の教員免許の両方を取得している教師が90%以上いるために実現）
- ② 中学校では「縦持ち制度」を導入。学習の進度を同一教科の他の教師と調整するため、週1時間の教科部会を開催し、授業の進度や質、授業技量を高めている。

#### 縦持ち制度

一般の学校では、通常横持ち（例えば、1年生の英語担当は1年1組、2組、3組の授業を担当）であるのに対し、福井県では学年をまたいで縦持ち（英語担当は、1年1組、2年1組、3年1組の授業を担当）して授業を行っている。

## 2 秋田県（秋田市・能代市）の取り組み

### (1) 学校の指導体制（学力向上のための授業改善等の支援体制）

- ① 研究主任が中心となって、毎週研修部会を開催し、学校全体へ授業等の改善事項を提案する。
- ② 探究型授業（問題 → 課題設定 → 自力解決 → 学び合い → まとめ → 評価）を徹底し、問いを発する子どもの育成に重点を置く。
- ③ 中学校では、全国学習状況調査を全学年で毎年6月に実施し、2学期以降の指導に生かす。

### (2) 教育委員会の指導体制（各学校の検証改善サイクルの徹底に向けた支援体制）

- ① 秋田市では、4月の全国学力・学習状況調査を踏まえ、7月に「学習指導改善の方策」を作成・配布する。  
また、10月実施の基礎学力調査前に「授業改善のヒント」を作成・配布する。当該基礎学力調査結果の分析をもとに、3月に「授業改善のポイント」「実践事例集」を作成・配布する。
- ② 能代市では、毎年5月～7月に、全小中学校を対象に実施される県教育事務所の訪問指導を受け、8月～10月に市の指導主事が市内の全教職員の授業を参観し、事務所訪問時における課題の解決に向けた進捗状況について指導助言する。また、毎年10月～12月に教育長が授業を参観して一年間の成果と課題を確認する。

### (3) 秋田県の学級編成基準

- ① 小学校で33人以上の学級を持つ学年、中学校で34人以上の学級を持つ学年に対し、少人数学習のため小学校に加配教員を、中学校に週24時間勤務の非常勤講師を配置する。
- ② 基礎教科（小学校：国語、算数、理科）（中学校：数学、理科、英語）で20人程度の少人数指導ができるよう週16時間勤務の非常勤講師を配置する。

### (4) 家庭学習：家庭教育の充実に向けた支援の徹底

- ① 家庭学習では、自分で計画を立てて学習することや、苦手な教科・分からなかった箇所・間違ったところを重点的に学習する。
- ② 問題を解いたら丸をつける等の指導や教師による自学ノートへのコメント等を徹底する。

### (5) 中学校での補充学習の徹底（補充学習徹底のための組織的対応）

年4回の基礎テストを行い、基礎学力が身に付いていない生徒に対して組織的に補充学習を実施する。



**(6) 教職員の人材育成（実践的指導力を高めるための人材育成システム）**

- ① 指導方法工夫改善教員の配置枠を活用して、教科指導力の高い教諭を県が「教育専門監」として任命。
- ② 教育専門監は、各地域における本務校及び兼務校でチーム・ティーチングによる授業実践を行うことで教員の資質能力を高める。
- ③ コア・ティチャーを各地区で教科毎に毎年2名ずつ任命する。コア・ティチャーは、指導主事と一緒に授業をつくり、教科指導力向上研修会で授業発表を行うことで教員の資質能力を高める。

**(7) ふるさと教育（キャリア教育の視点による校種間の連携・地域連携によるふるさと教育）**

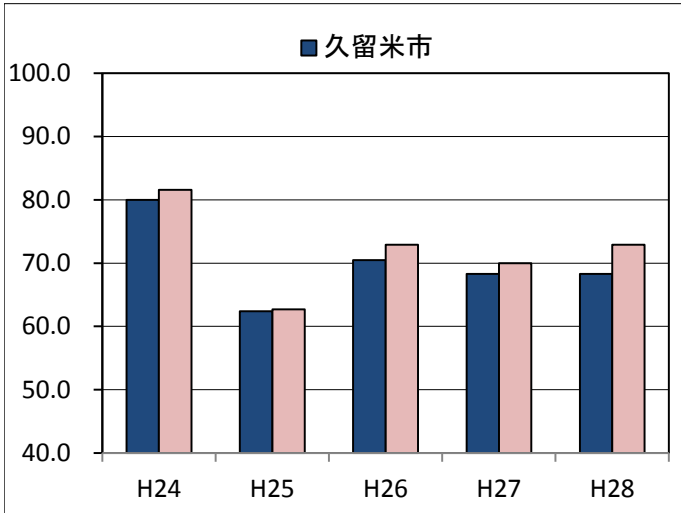
- ① キャリアノートを活用した校種間の連携
- ② 地域の活性化に貢献する活動、伝統や産業を受け継ぐ活動、最先端技術に触れる体験、世界で活躍する人から学ぶ活動、秋田の自然や文化に触れる体験活動等を位置付けた啓発的体験活動に係るカリキュラムの明確化

## 資料2 平均正答率及び全国との差の推移

### 小学校 国語A

	H24	H25	H26	H27	H28
久留米市	80.0	62.4	70.5	68.3	68.3
全国	81.6	62.7	72.9	70.0	72.9
差	▲ 1.6	▲ 0.3	▲ 2.4	▲ 1.7	▲ 4.6

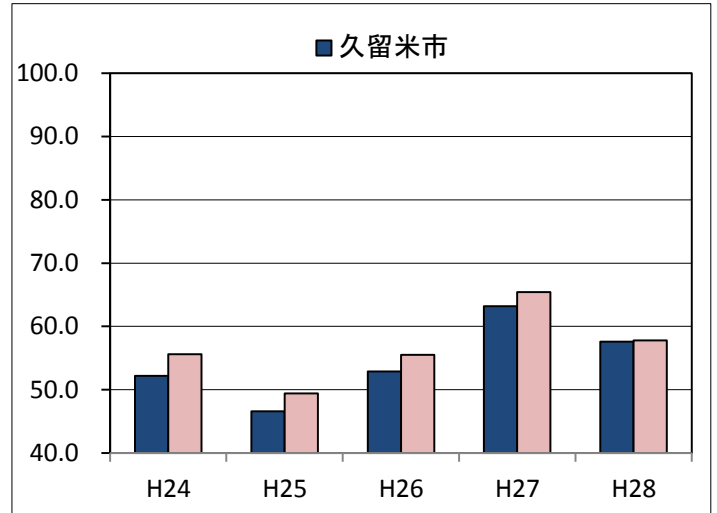
平均正答率の推移 (%)



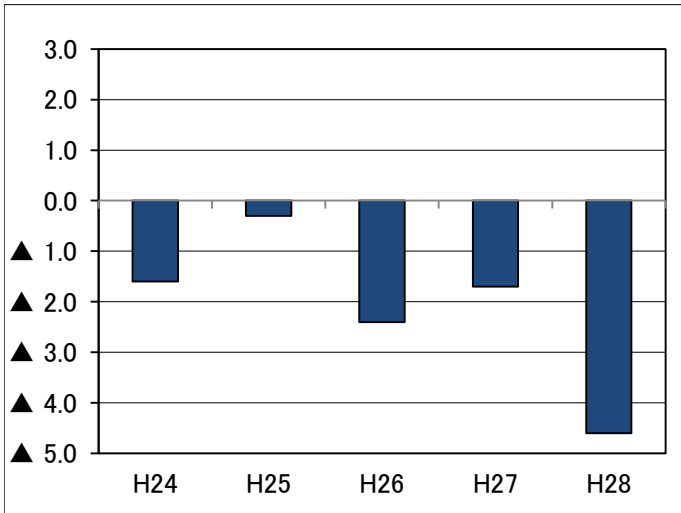
### 小学校 国語B

	H24	H25	H26	H27	H28
久留米市	52.2	46.6	52.9	63.2	57.6
全国	55.6	49.4	55.5	65.4	57.8
差	▲ 3.4	▲ 2.8	▲ 2.6	▲ 2.2	▲ 0.2

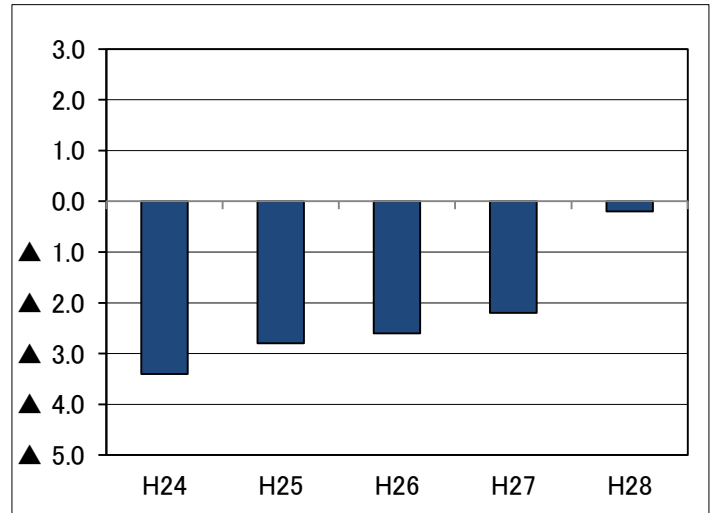
平均正答率の推移 (%)



平均正答率の全国との差 (%)



平均正答率の全国との差 (%)

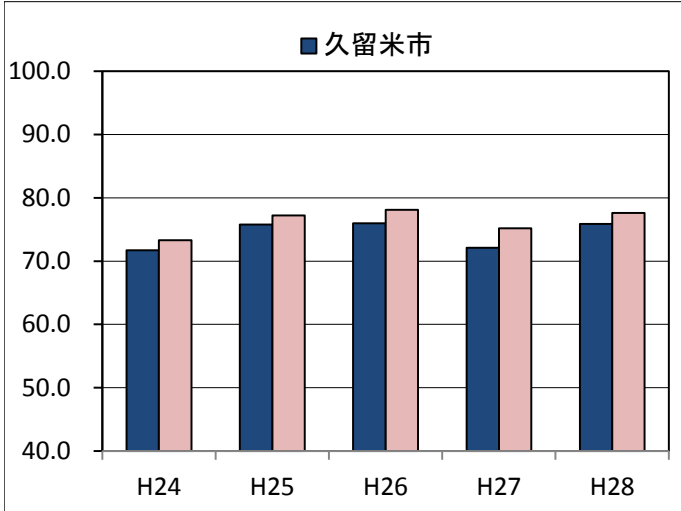


## 資料2 平均正答率及び全国との差の推移

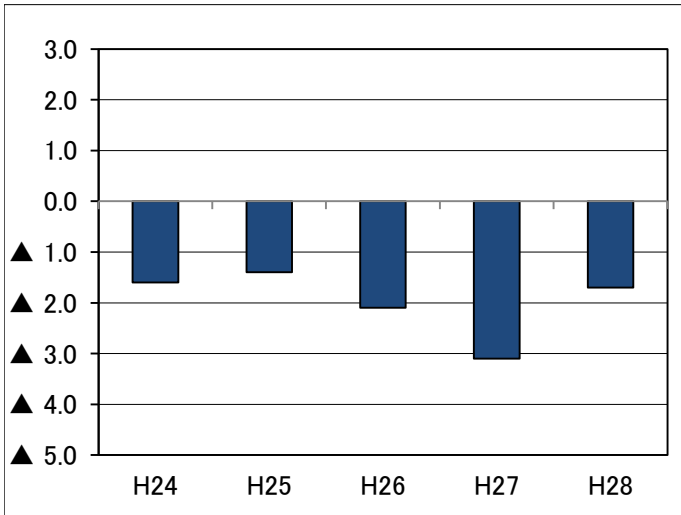
小学校 算数A

	H24	H25	H26	H27	H28
久留米市	71.7	75.8	76.0	72.1	75.9
全国	73.3	77.2	78.1	75.2	77.6
差	▲ 1.6	▲ 1.4	▲ 2.1	▲ 3.1	▲ 1.7

平均正答率の推移 (%)



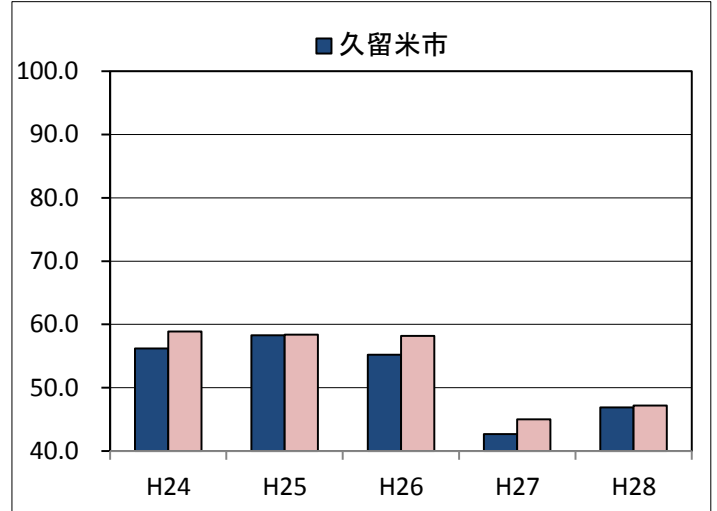
平均正答率の全国との差 (%)



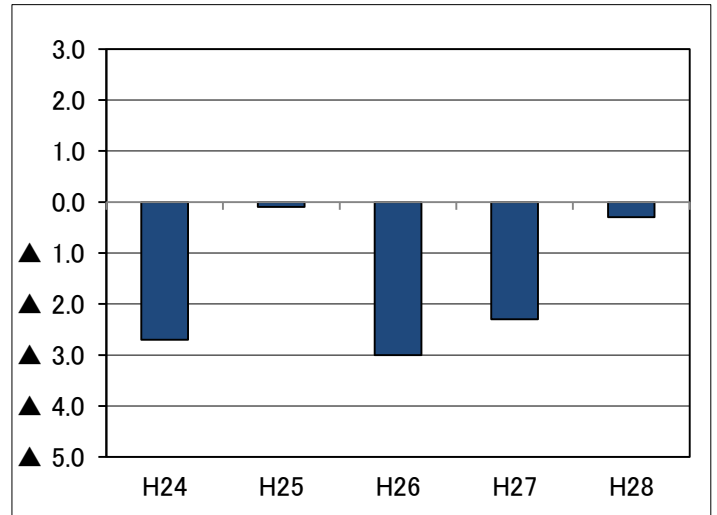
小学校 算数B

	H24	H25	H26	H27	H28
久留米市	56.2	58.3	55.2	42.7	46.9
全国	58.9	58.4	58.2	45.0	47.2
差	▲ 2.7	▲ 0.1	▲ 3.0	▲ 2.3	▲ 0.3

平均正答率の推移 (%)



平均正答率の全国との差 (%)

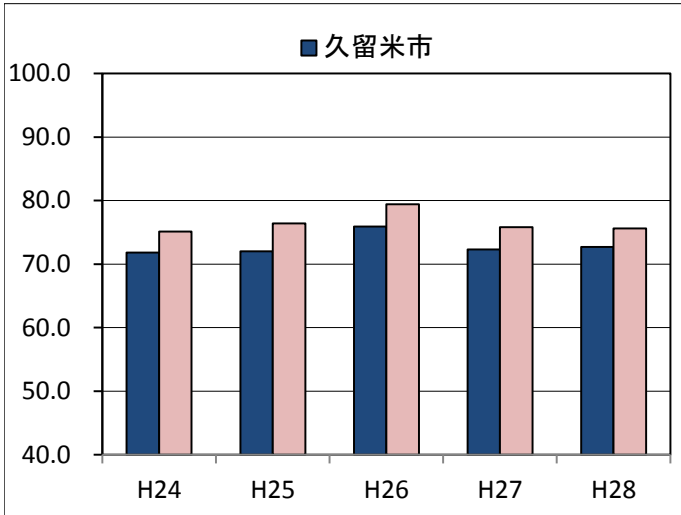


### 資料3 平均正答率及び全国との差の推移

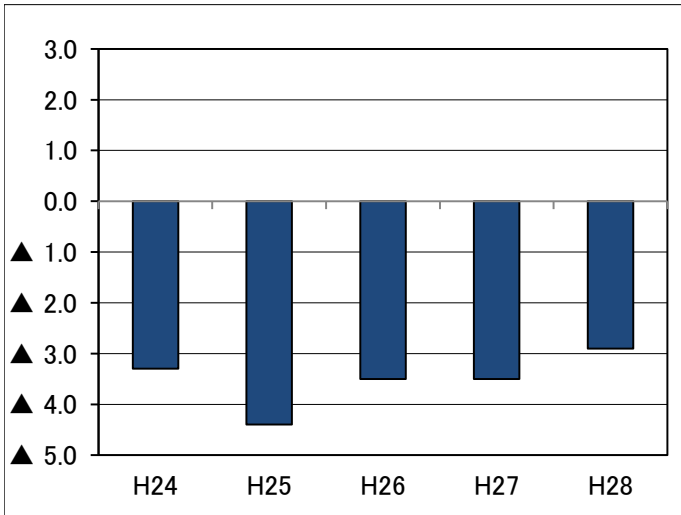
#### 中学校 国語A

	H24	H25	H26	H27	H28
久留米市	71.8	72.0	75.9	72.3	72.7
全国	75.1	76.4	79.4	75.8	75.6
差	▲ 3.3	▲ 4.4	▲ 3.5	▲ 3.5	▲ 2.9

平均正答率の推移 (%)



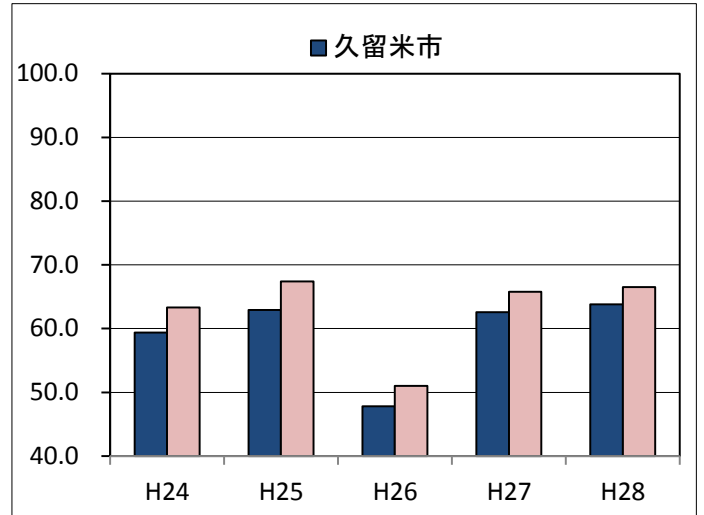
平均正答率の全国との差 (%)



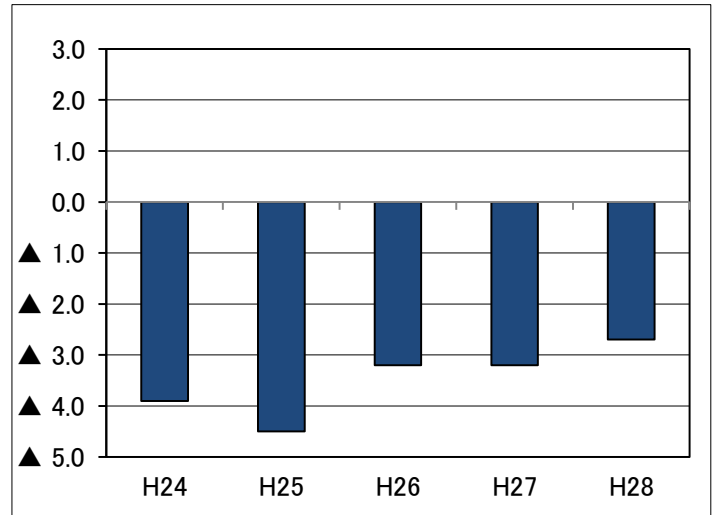
#### 中学校 国語B

	H24	H25	H26	H27	H28
久留米市	59.4	62.9	47.8	62.6	63.8
全国	63.3	67.4	51.0	65.8	66.5
差	▲ 3.9	▲ 4.5	▲ 3.2	▲ 3.2	▲ 2.7

平均正答率の推移 (%)



平均正答率の全国との差 (%)

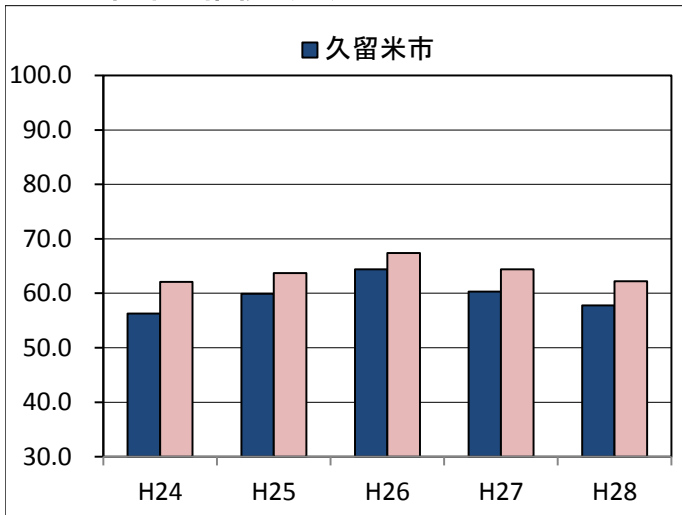


### 資料3 平均正答率及び全国との差の推移

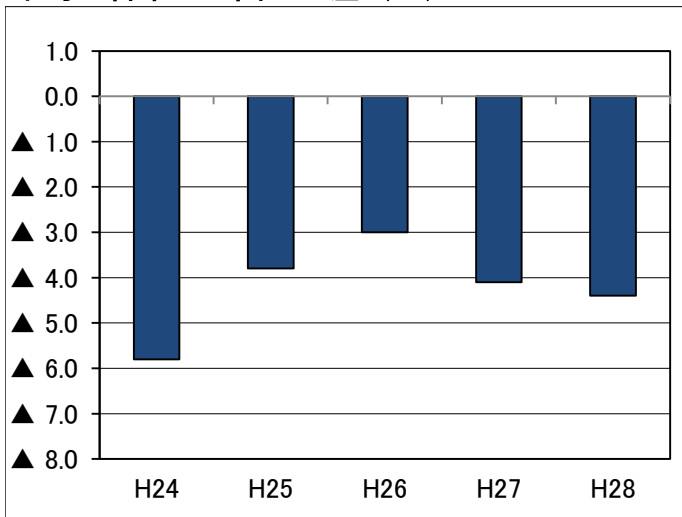
#### 中学校 数学A

	H24	H25	H26	H27	H28
久留米市	56.3	59.9	64.4	60.3	57.8
全国	62.1	63.7	67.4	64.4	62.2
差	▲ 5.8	▲ 3.8	▲ 3.0	▲ 4.1	▲ 4.4

平均正答率の推移 (%)



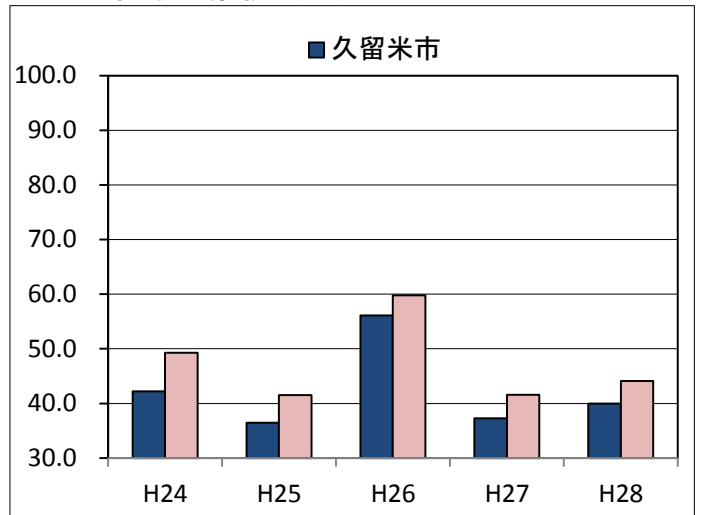
平均正答率の全国との差 (%)



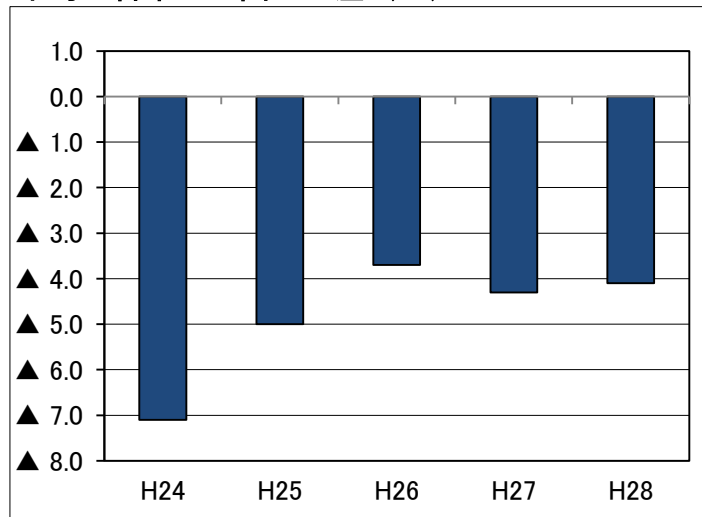
#### 中学校 数学B

	H24	H25	H26	H27	H28
久留米市	42.2	36.5	56.1	37.3	40.0
全国	49.3	41.5	59.8	41.6	44.1
差	▲ 7.1	▲ 5.0	▲ 3.7	▲ 4.3	▲ 4.1

平均正答率の推移 (%)

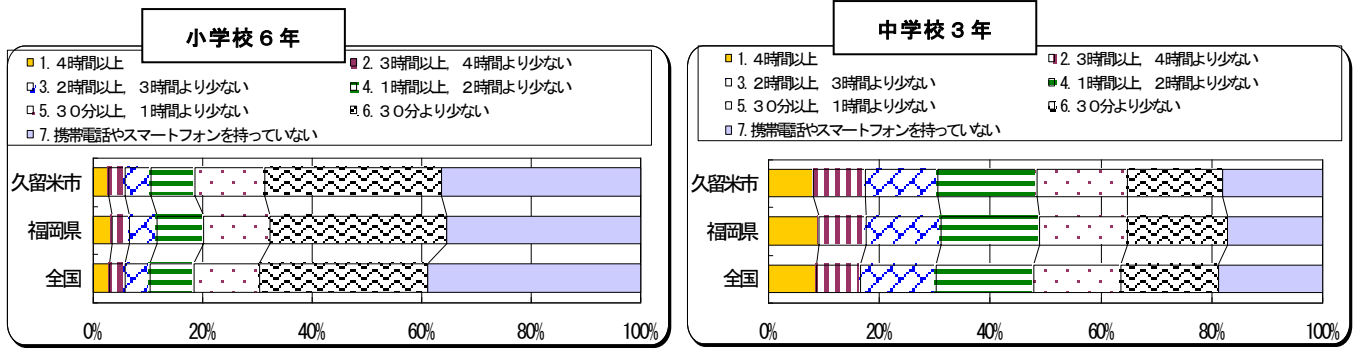


平均正答率の全国との差 (%)



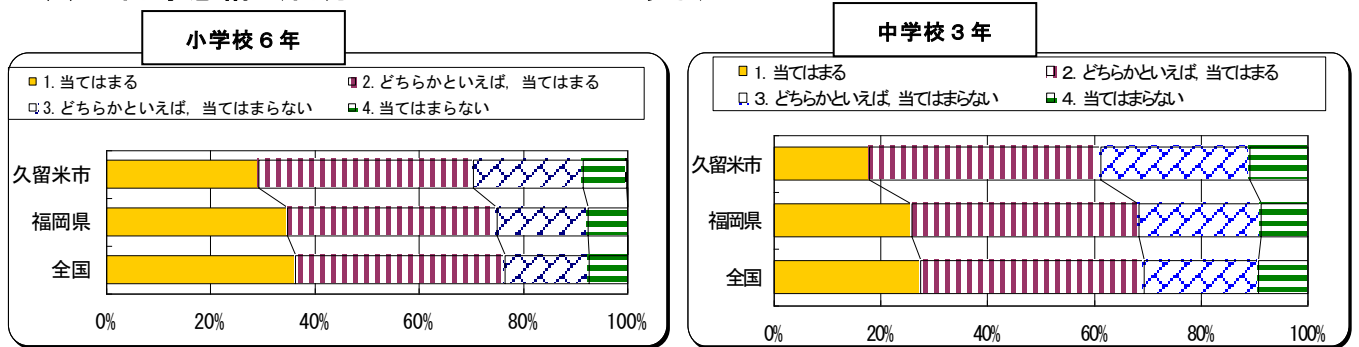
## 資料4 児童生徒質問紙の主な結果と考察

### (1) 携帯電話やスマートフォンの使用時間



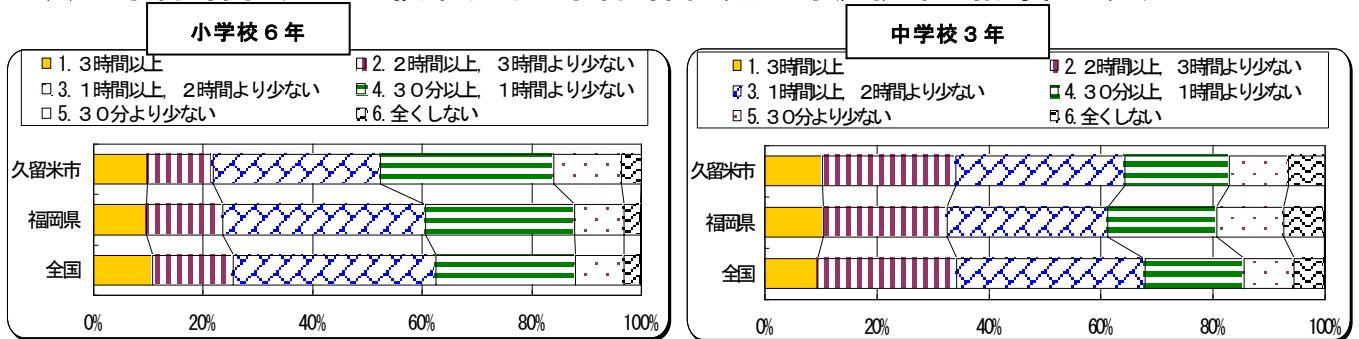
携帯電話やスマートフォンを1時間以上使用している割合は小学校 18.6%で、昨年度より増加したが全国平均とほぼ同じだった。中学校は 48.2%で昨年度より増加し、全国平均をやや上回った。

### (2) 自尊心（自分にはよいところがある）



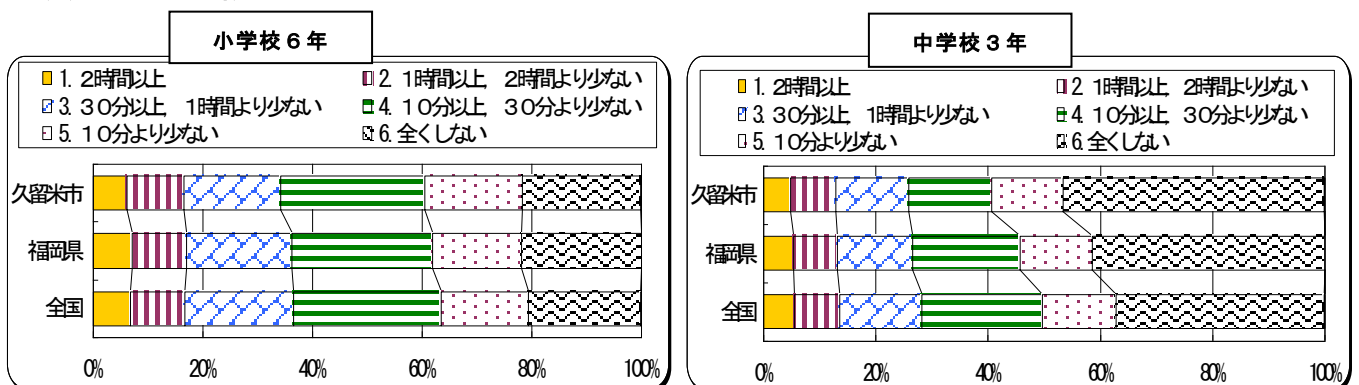
肯定的に答えた児童生徒の割合（1・2）は小学校 70.4%で昨年度より 1.6%減少し、全国平均を 5.9%下回った。中学校は 61.1%で全国・県よりも低い結果となったが、昨年度より 0.6%増加した。

### (3) 学習時間（平日の授業以外の学習時間〔塾・家庭教師の指導含む〕）



1時間以上学習する児童生徒の割合は小学校 52.4%、中学校 64.2%と全国平均を下回った。全くしない児童生徒は小学校 3.7%、中学校 6.5%で全国平均よりやや多かった。

### (4) 1日の読書の時間



30分以上読書をする割合（1～3）は小学校 34.1%、中学校 25.8%で全国平均より少なかった。全くしない割合は小学校 21.6%、中学校 46.6%と全国平均を上回る結果となった。

## 資料5 計画表について

平成28年度 全国学力・学習状況調査等の分析及び今後の取り組み計画表

平成28年11月 日

学校名	中学校
-----	-----

1 全国学力・学習状況調査(中3)の分析 全国正答率との差

国語A		
国語B		
数学A		
数学B		
学習状況		

2 福岡県学力調査(中2)の分析 県正答率との差

国語		
数学		
学習状況		

3 今後の具体的な取り組み計画(中2に対する) 実施状況チェック

11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

4 次年度(現中2)の目標値(本年度の全国平均正答率との差を何ポイント上昇させるか)

国語A	国語B	数学A	数学B